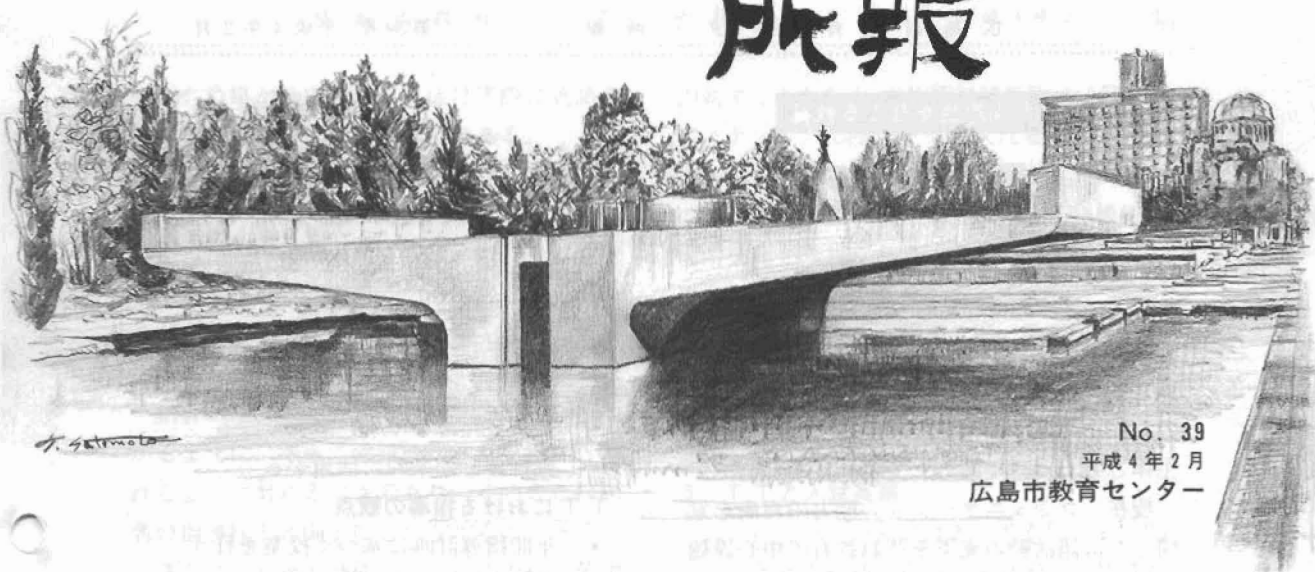


所報



No. 39

平成4年2月

広島市教育センター



豊かな国際性を育てる

国立教育研究所 生涯学習研究部長 川野辺 敏

通勤途上の電車の中でアジアの出稼ぎらしい人の姿を見かけない日はないようになった。四面海に囲まれ、皮膚の色の同じ人間と同じ言葉で生活してきた私たちにとって、驚きであり、戸惑いがあるのは確かである。国際性を育てることの必要性がいわれる前に、国際化は急速に進んでいるといえよう。

国際性を育てるといった場合、私は二つの側面があると思っている。知的・技能的な面と人間性の面である。外国のことを知る（異文化理解）、日本のことを知る（日本理解）、さらに外国人と交流する技能を身につける（コミュニケーション技能）などのことが前者である。外国語を話せなかったために交友の機会を逃した場合もあろうし、異文化を知らなかったために、外国人からひんしゅくをかったり、腹を立てたりする場合も多いのである。

しかし、実はその土台となる豊かな人間性を育てることがもっと大切なのである。異文化を知り、外国語を話せても、どう相手を理解し、判断し、行動するかは、人間自身にかかっており、その人間性が問われることになるからである。異文化を理解する前に、皮膚

や目の色がどうであれ、人間として同じであるという「同質性」を感じとれる人間であるか、相手の短所を見つけるのではなく、「長所を学ぶ」姿勢をもっている人間であるか、相手の立場に立って判断し、行動できる人間であるか、が問われているのである。

これらの資質は、教師がその重要性を自覚し、子どもの日常生活を通じて着実に育てていく以外に方法はない。私は、その手段として子どもたちに「人間の生きる喜びの根元」を体験させてやりたいと願っている。それは社会的存在としての人間の「他に役立つ喜び」、孤独な個としての「創造の喜び」、感性的な存在としての「感動の喜び」の三つである。

これらの喜びの体験を通して子どもの心の世界（精神世界）を美しく、豊かにし、苦しんでいる国や人々のために働きたい、貢献したいという欲求を育てるのである。そんな心情をもった人間は、必要があれば異文化を理解し、外国語をマスターするために懸命に努力するに違いない。同じ言葉、同じ行動であっても相手の国や人に温かい共感をよぶものになるに違いないのである。

特集 豊かな国際性を育てる教育

英語科におけるチームティーチングに関する一考察

広島市教育センター主任指導主事 福原 紘治郎

ここで述べるチームティーチング（以下T-T）は、生徒・日本人教師（以下JTE）・外国人講師（本稿では英語指導助手以下AET）の三者が相互に協同して創り出す言語活動を主体とした英語授業として定義する。

現在、コミュニケーション能力の育成を意図した言語活動の充実を英語教育の中心課題に据えた実践が、地道に進められている。

しかし、いわゆる伝統的な文法訳読式的な指導、教師主導型の知識詰め込み型の授業、言語機能を無視した言語形式偏重の文法指導等コミュニケーション能力の育成を阻害する要因が、今もなお残存していることも事実である。したがって、コミュニケーション能力の育成をめざした実践的で効果的な学習指導が行われるためには、JTE自身の意識の変革・発想の転換とともに、AETとのT-Tを含めた授業の質的変換も求められている。

以上の実態を踏まえて、本稿では、コミュニケーション能力の育成と国際理解の基礎を培うことをねらいとするT-Tが、英語授業の中に定着し、しかも効果的に機能するための方策について五つの側面から考えてみたい。

1 T-Tと普通授業

T-Tが特別の授業として、生徒やJTEに受けとめられないようするためには、T-Tの内容・方法が、その前後の授業、すなわちJTEの行う普通授業のそれと有機的なつながりを持ち、相補的な効果を生むように工夫される必要がある。

したがって、普通授業とT-Tにおいてはそれぞれ、次のような観点から指導が行われるべきである。

普通授業における指導の観点

- できるだけ英語を使用する
- 生徒中心の授業を行う
- 活動中心の授業を行う
- 生徒が発言しやすい環境を作る
- 教科書を効果的に活用する

T-Tにおける指導の観点

- 年間指導計画に基づく授業を行う
- 授業のねらいを明確にする
- 教科書に基づく授業を行う

T-Tにおいて、AETとJTEはより良きパートナー（Partner）として、お互いを認め合い、協力して指導にあたる必要がある。

その際、AETは教師として、また、適切で生きた英語を提供してくれる英語情報者として、さらに、異文化を直接体験させてくれる文化大使としての働きを担うことになる。

2 T-TにおけるPlan, Do, See
Plan（計画）

JTEとAETが協力して授業計画を作成する段階である。前時の授業内容を踏まえて指導目的、教材分析さらに目標達成のための活動や役割分担等について率直に話し合う過程で、お互いの教育観や指導の共通点をさぐることになる。特に、教科書をいかに創造的に活用するかという観点から協同して学習指導案を作成することは、両者にとって意義のある活動であり、T-Tの成否の鍵を握る重要な活動でもある。

Do（実践）

生徒・JTE・AETの三者が言語活動を主体的に展開する段階である。三者間の言語相互作用（Interaction）が活発に行われる場面を多く仕組むように努めるべきである。このことによって、教室の中に生きたコミュニケー

ションの場が設定され、生徒は実際に英語を使用することを体験できるのである。

See (評価)

授業後に JTE と AET がそれぞれの活動が指導のねらいに沿ったものであったかどうかを話し合う段階である。その際、計画の段階で一定の評価の観点を定めておくことが、評価活動をより効果的なものにすると思われる。

話し合いは、次時の授業の改善・工夫につながるように、率直で建設的な意見交換が行われるように努めるべきであり、そのことは両者の指導技術の向上にもつながるのである。

さらに、計画と評価の話し合いの過程で英語を使用することによって、JTE 自身も、「国際社会の中に生きる資質」であるコミュニケーション能力を育成し、国際理解の素養を身につけることもできるのである。

3 T-T と言語活動

AET が教室の中に存在することによって JTE の意図的な言語の実際使用につながる活動 (Pseudo-communication Activity) を仕組むことができる。さらに、コミュニケーションの特徴である、Information Gap、Choice、Feed Back を生かした高度な活動 (Real Communication Activity) を生徒・JTE・AET での Interaction の中に持たせるように努めるべきである。

4 T-T と教科書

T-T と普通授業とを関連させるためには教科書を創造的に活用すべきである。AET も、教科書を使用することをオリエンテーションの場で要請されていると聞いている。現行の教科書自体 T-T 用に編集されていないし、コミュニケーション能力を培うのに適した教材ばかりであるともいえない。したがって、教科書は、学習項目 (Syllabus) を具体化した一例にすぎないことを認識し、コミュニケーション能力の育成を目標とする観点から JTE 自身が教科書を大胆に使用すべきである。そのためには、JTE 自身が伝統的な教科書使用に

固執することなく、主体的に積極的に AET のアイデア (Idea) を受け入れるという発想の転換が必要である。その際、自らの授業そのものも、一文一文の和訳指導、言語機能や使用場面を無視した文法事項の指導等から脱皮する勇気もまた必要であろう。

また、他の教材を使用して、教科書を使わない T-T が続くと、生徒は当初の新鮮味を失い、学習意欲が低下し、いわゆる入試英語を意識した不満の声があがることも懸念される。

5 T-T と入試英語

入試に出やすい英語はあっても「入試英語」という英語の範疇はない。入試内容に特殊性があるとすれば、第1次言語 (聞く・話す) の力が直接的に問われることがほとんどなく第2次言語 (読む・書く) の力を問う問題が中心になるということである。また、入試は本来、中・高等学校の指導過程を踏まえた形式で行われるべきである。入試形態がまず存在して、それに指導形態を準じさせているところに問題があると思われる。

しかし、入試の形態が徐々にではあるが変わり、入試で求めている英語とコミュニケーション能力を構成している英語の間には、大きな差がなくなっている。基本的には、コミュニケーションに必要な英語力を養うことは、入試にも対応できる「語学力」を養うことに通じるという姿勢を持つべきである。

AET との T-T を通して、英語のさまざまな用法について JTE の持っている知識を点検し、何が重要で何が重要でないかを判断することができるが、その判断の基準は、入試ではなく、英語運用の実態でありたい。

T-T は「入試英語」が国際化時代の現在もなお、中・高等学校英語教育の金科玉条として存在する異様さに気づかない感覚に問いかけており、現在行われている T-T をめぐる課題の根底には JTE の英語教育に対する固定観念がいくらか関わっているように思われてならない。

教育実践基礎講座6

子どもと共に人間としての生き方を学ぶ道徳の時間の指導

— 人間の強さや気高さに触れさせる指導を例に —

広島市教育センター指導主事 吉竹邦昭

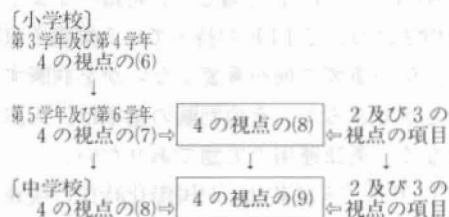
学校教育においては、国際化などの社会の変化に主体的に対応できる子どもを育てることが求められ、様々な教育活動が行われている。道徳の時間の指導も、このような子どもを育てる上で、大きな役割を担っている。

学習指導要領「第3章 道徳」の「第2 内容」の中で、国際理解を深め、国際協力の精神を育てることと深くかかわる内容が「4の視点」の内容項目にある。

<p>小学校 第5学年及び第6学年 [4の視点の(8)] 外国の人々や文化を大切にすることを、日本人としての自覚をもって世界の人々と親善に努める。</p> <p>中学校 [4の視点の(9)] 世界の中の日本人としての自覚をもち、国際的視野に立って、世界の平和と人類の幸福に貢献するように努める。</p>

具体的な場で道徳的行為がなされる場合、一つの内容項目だけが単独に作用するということはほとんどない。そこでは、ある内容項目を中心として、同じ視点内や他の視点内のいくつかの項目が関連し合っている。

前述の内容項目と関連が深い項目をあげると次のとおりである。



中学校の「4の視点の(9)」の内容項目の指導でよく活用される資料に「マザー・テレサ」がある。この資料には、彼女の深い人間愛に基づいた献身的な活動とそれを支えている限りない人間愛の精神と信念が描かれている。

指導にあたっては、人類のためにすべてを捧げて生きることが自分の使命と考える彼女の生き方と、これを支える深く大きな人間愛の精神に目を向けさせる必要がある。

しかし、指導のねらいに迫らせたいあまりに、彼女自身の考えや気持ちだけを問うのであれば、いわゆる平板な授業になり、「私には到底できないこと」という思いを子どもにもたせるだけの授業でおわることが多い。

次の指導例は、発問などを工夫し、子どもの心を耕すことのできるものである。

学 習 活 動	活動のねらい
<ul style="list-style-type: none"> マザー・テレサの写真を見て思ったことやマザー・テレサについて知っていることを発表する マザー・テレサの略歴を知る 	<ul style="list-style-type: none"> マザー・テレサ自身やその生き方に関心をもたせる [資料に興味をもたせるとともに、問題意識を喚起する]
<p>資料「マザー・テレサ」の範読を聞く</p> <ul style="list-style-type: none"> マザー・テレサとかかわり合った人々の考えや思いについて話し合う 発問1 病院の院長は、路上で瀕死の状態で行き倒れていた老婆の入院をなぜ拒んでいるのでしょうか 発問2 病院の院長は、マザー・テレサのどんなところに心を動かされて、入院を許可したのでしょうか 発問3 “マザーの家”づくりに携わった人々は、どんな思いでマザー・テレサの活動に協力しているのでしょうか 発問4 マザー・テレサの活動がなぜ世界中に広がっていったのでしょうか マザー・テレサの“4歳坊やの砂箱”の話を聞く ボランティア活動(青年協力隊等)の実態やその様子を知る 	<ul style="list-style-type: none"> 現実の壁の中で、老婆の入院を拒んだ院長の姿勢を、共感的に追求させる [登場人物の行為を通して自分の心を問う] マザー・テレサの言葉に心を打たれ、一人の人間として改めて命の尊さに気付く院長の姿に共感させる マザー・テレサの人間愛につながる温かい心や信念の強さに気付かせる [登場人物の生き方の追求を促し、人間としての心を問う] 自分にもできることのあることに気付かせる

このように、発問や学習活動などを工夫することで道徳的実践力(道徳的心情、道徳的判断力、道徳的実践意欲と態度)を育成し、国際社会に主体的に対応できる資質を育てる必要がある。

— 教育相談室から —

Q

おこたえします

A

— 顔をしきりにしかめる子ども —

Q 小学校4年生のAさんの担任です。Aさんは、落ち着きがなく、いくら注意されてもじっとしていません。学習の遅れもみられます。最近顔をしきりにしかめたり、目をパチパチしたりすることが多いので気になっています。早くやめさせようと思って注意すると、しばらくはよいのですが、またもとどおりになってしまいます。

校医に相談すると、「チック症ではないか。」と言われました。これからどのように指導すればよいでしょうか。

A チックには、いろいろな表れ方がります。目をパチパチさせたり、肩をしきりに傾けたり顔をしかめたりする、また顔を振ったり首を曲げたり、声を出したりするなど多様な症状がみられます。時には、いくつかの症状が合わさることや症状が移行することもあります。

チックの原因は、心理的な面にあることが多いようです。例えば、教師や保護者からの強い叱責や友達からのいじめ、転入学や進級の際などに起こる緊張や不安などが考えられます。また、常に保護者から強い期待をかけられている状態の中で起こることも考えられます。

このような原因によってチックの症状がみられる子どもに対して、次のような対応が必要となってきます。

1 子どもとのスキンシップを図る

生活の中で欲求不満が続くと、落ち着きがなくなることがあります。一緒に遊ぶ中で、だっこしたり、おんぶしたりしてスキンシッ

プを図ることにより、子どもの気持ちを受け入れて、リラックスさせることが大切です。

2 情緒の安定を図る

子どもによっては、学習の遅れにより、友達からいじめられたり、学習する楽しさを体験していなかったりすることがあります。このような子どもに対しては、得意なことをみつけ、伸ばしながら、ほめたり励ましたりすることにより成就感や成功感、満足感を持たせることが必要です。また、子どもの好きな遊びを十分させることにより、気分を発散させることも大切です。

3 症状を指摘したり、やめさせようとするしたりしない

チックは、一定の筋群に突然目的のない急速な運動が、まったく不随意に起こるものです。周囲の人がやめさせようとして、無理に抑えると、かえってひどくなることがあります。また、友達から指摘されたりからかわれたりすると、子どもはますます傷ついていきます。子どもと接する時、いつも厳しくしかったり、禁止や制限、指示したりするのではなく、温かく見守ることが必要です。

子どもの発達状態を把握し、周囲の人の期待が子どもにとって過重負担になっていないかを見極めながら、心理的安定を図っていくことが大切です。子どもは、ことばで気持ちを表現するだけではありません。心理的不安や緊張が重なると、身体に症状となって表れてきます。したがって、日々の行動の観察をきめ細かく行うことで心理状態を把握するとともに、学校と家庭との連携を密にしながら指導していくことが必要です。

広島市教育センター指導主事 中尾 秀行

教育センターひろば

広島市立学校教育研究生

本年度は21名の先生方が9月から11月の3か月間、当教育センター及び在勤校において研究されました。

平成3年度 教育研究生

校種	研究部門	氏名	学校名
小学校	社会科教育	水ノ上俊一	口田小学校
	理科教育	堀達司	安東小学校
	音楽科教育	道田喜美子	牛田新町小学校
	体育科教育	林信一郎	五日市南小学校
	特別活動	益田幸一	大芝小学校
	教育相談	清水剛	口田東小学校
	教育工学	前迫護	日浦小学校
	生活科教育	宮本修	安小学校
中学校	生活科教育	日山由香	戸坂城山小学校
	国語科教育	大下恵子	牛田中学校
	数学科教育	畑博志	高取北中学校
	技術科教育	竹崎文康	矢野中学校
	英語科教育	藤本良史	庚午中学校
	教育相談	清水祥子	祇園東中学校
	障害児教育	宮野晃子	広島養護学校
高等学校	社会科教育	青本真二	沼田高等学校
	理科教育	生田晃治	広島商業高等学校
		河野毅	広島工業高等学校
	生徒指導	山本美保	沼田高等学校
幼稚園	幼稚園教育	真砂浩子	口田幼稚園
		都甲得恵	温品幼稚園

コンピュータ教育利用研究プロジェクト研究員

当教育センターでは、コンピュータ教育利用に関する研究をすすめるにあたって、次の先生方に研究員をお願いしています。

平成3年度 コンピュータ教育利用プロジェクト研究員

	氏名	所属校	
小学校	算数	廣岡優子	原小学校
		宮田稔	深川小学校
		甲斐清	牛田新町小学校
	理科	田原潤	長東小学校
		中西博昭	山本小学校
		木村照男	広瀬小学校
中学校	数学	山本光信	安佐南中学校
		藤井俊孝	五日市中学校
		桑原郁文	安西中学校
	理科	松浦俊雄	美鈴が丘中学校
		山口悦朗	亀崎中学校
		竹内保行	安佐中学校
	技術・家庭	前田恵壮	国泰寺中学校
		岸菜康成	大州中学校
		長谷川洋	井口中学校
高等学校	数学	栗栖博昭	舟入高等学校
		南方望	沼田高等学校
	理科	宇田武正	基町高等学校
		阿部修三	安佐北高等学校
		藤岡哲	美鈴が丘高等学校

表紙絵 広島市立亀崎中学校長 里本 俊文
 題字 広島市立段原小学校教頭 足立 柳子

編集後記

本年度最後の所報をお届けします。今回は、「豊かな国際性を育てる教育」について特集しました。アジア大会を控え、真の国際性が問われています。教育実践にお役立てください。

